

# 農林水産大臣賞受賞

山林、里山、農地、川、水、人を一体として次代に残す「美しい久野」の創出

受賞者 うつく くのさとちさとやまきょうぎかい  
**美しい久野里地里山協議会**  
かながわけんおだわらし  
(神奈川県小田原市)

## ■ 地域の沿革と概要

小田原市は、面積が 113.81 km<sup>2</sup>、人口が 191,958 人（平成 30 年 2 月 1 日現在）で東京からおおよそ南西に約 80km に位置する。神奈川県西部に位置し、市の南西部に箱根外輪山から延びる山地が広がり、東部は丘陵地帯となっており、中央部には酒匂川が南北に貫流し、その兩岸に足柄平野が形成されている。また、南部は相模湾に接しており、変化に富んだ地形で構成されている。戦国時代に関東一円を支配した北条氏の本拠である小田原城を中心として、市の南部では商工業が発展し、それを取り囲むように平野部では水稻や野菜、丘陵地では柑橘や梅を中心とした農業が営まれ、沿岸部では漁業が盛んである。

第 1 図 位置図



## ■ むらづくりの概要

### 1. 地区の特色

美しい久野里地里山協議会（以下、「協議会」と称する。）が活動する久野地区は、箱根古期外輪山の北東から東にかけての山稜にあるみうじょうがたけ、塔之峰からの傾斜面にあり、箱根と相模湾の間をつなぐ広大な山林、農地、集落で構成される地区である。協議会は久野地区全体を活動範囲とし、地区の中央を流れる久野川の川上から川下までを一つのエリアとして活動している。この活動面積は、県内における里山関係団体の中で最大である。

第 1 表 地区の概要

事項	内容	
地区の規模	大字単位の集団	
地区の性格	地縁的な集団等	
農家率 (内訳)		2.5%
	総世帯数	79,120戸
	総農家数	1,987戸
専業別農家数 (内訳)	専業農家	413戸
	1種兼業農家	141戸
	2種兼業農家	626戸
農用地の状況 (内訳)	総土地面積	11,379ha
	耕地面積	1,820ha
	田	514ha
	畑	1,310ha
	耕地率	16.0%
	農家一戸当たり耕地面積	0.9ha

注：市全体の数値  
専業別農家数は販売農家の内数のため、総農家数と一致しない

## 2. むらづくりの基本的特徴

### (1) むらづくりの動機、背景

協議会が活動する久野地区では、農林業者を含む地域住民の高齢化が進行し、管理できず放置される農地や山林の増加が顕著となっていた。このため荒廃した農林地は病虫害や鳥獣害の増加だけではなく、人の目が届かなくなったことによる不法投棄の増加等の問題を引き起こしていた。このことから、地元の有志が中心となり、里山の保全・再生・活用に関する勉強会を開始し、この勉強会を経て、平成21年に「美しい久野里地里山協議会」を設立し、個人会員に加え、NPO法人あしがら農の会等の団体会員が連携しながら、里地・里山の保全の取り組みを行っている。



写真1 久野地区の田園風景

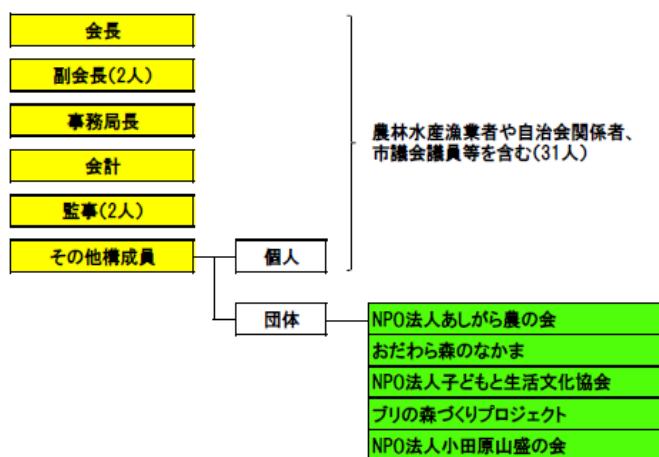
### (2) むらづくりの推進体制

#### ア 当該集団等の組織体制、構成員の状況

協議会は、役員として会長1人、副会長2人、事務局長1人、会計1人、監事2人で構成されている。全体の運営は総会や役員会によるほか、メーリングリストを活用した情報共有と合意形成を行い、迅速な意思決定のもと活動している。

組織体制の特徴としては、各構成員がそれぞれの専門分野（農業、林業、漁業、環境調査等）を有し、主導できる人物が各事業の企画・運営にあたり、他の構成員が積極的かつ柔軟に各事業に協力する形で進められている。

第2図 むらづくり推進体制図

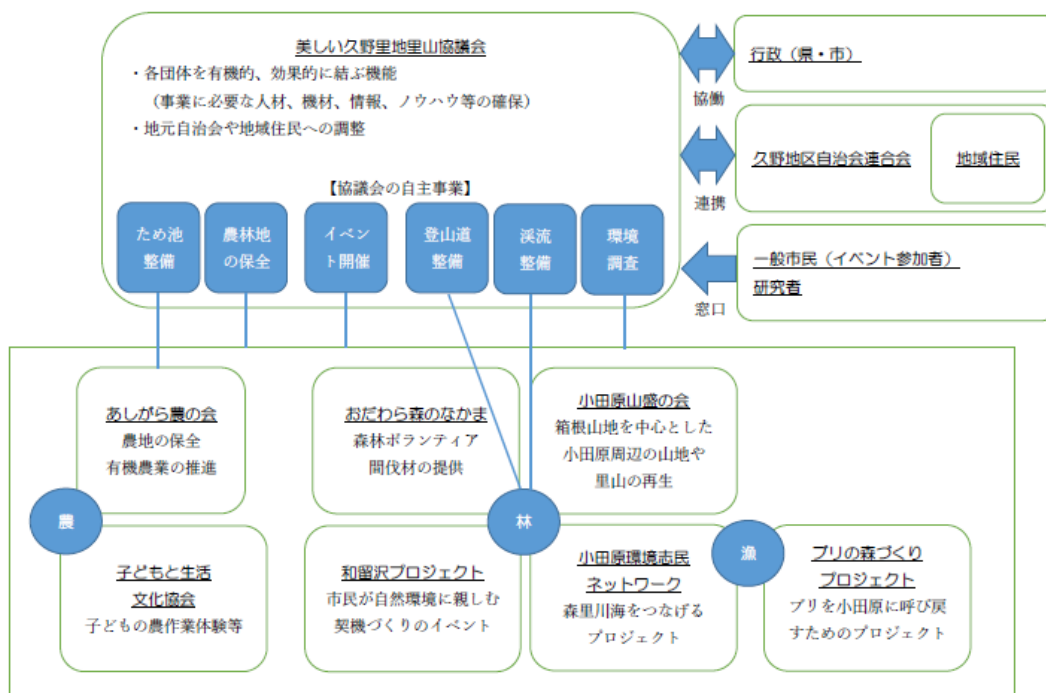


#### イ 当該集団等と連携してむらづくりを行う他の組織、団体及び行政との関係

市と連携して、市有財産のため池の維持管理を実施している。また、自治会とも連携し河川の一斉清掃や草刈り等を実施している。

また、協議会に参画する NPO 法人あしがら農の会などの団体とも連携し、食農教育や地域の環境を学習するイベントを開催している。

### 第3図 むらづくり連携図



## ■ むらづくりの特色と優秀性

### 1. むらづくりの性格

高齢化による農林地の荒廃や、それに伴う不法投棄等の諸問題を課題視して集まった地元有志によって設立された当協議会は、地元自治会等の関係団体と連携して農林地の再生や登山道・溪流の整備、環境調査、親子向けイベントの開催等に取り組んでおり、これらの取り組みが地域における自然環境・住環境の改善、ひいては地域社会全体の活性化に貢献している。

### 2. 農業生産面における特徴

#### (1) 農地の保全等について

小田原市は大量消費地である都心に近く、変化に富む地形であることから、水稻、野菜、果樹等少量多品目の経営を営む農家が多い。久野地区では、水田、茶畑、キウイフルーツ園等が多く、耕地面積は市内の4分の1を占めている。また、小田原市の農家1戸当たりの耕作面積は50a程度である。

このような地域において、放棄された田畑は病虫獣害や不法投棄の温床になるため、当協議会では、NPO法人あしがら農の会と連携して久野地区内で田約110a、畑(茶畑含む)約300a、樹園地約24a、合計約434



写真2 再生した農地

aを再生し、維持管理を続けている。また、市立久野小学校の学校農園を管理、生徒への栽培指導などの食農教育を実施している。

更に、協議会が農林地を整備・管理することで、近隣の農林業者の意識も変わり、農林地の荒廃を防ぐといった好循環を生み出している。

また、使われなくなった小田原市所有の農業用ため池を再整備し、地域の農業遺産として維持管理を行っている。

漁業面では、ブリの森づくりプロジェクト等の関係団体と連携して、山林と里山に手を入れその健全性が向上することで、魚付き林の再生に取り組んでいるほか、ヤマメの放流等も行っている。



写真3 維持管理するため池

### 3. 生活・環境整備面における特徴

協議会では、地域住民や一般市民の目が届くことで、不法投棄や近隣地の荒廃を防ぐことを目的に農林地の再生のほか、溪畔林、登山道等、農地以外の土地でも美しい景観を形成する活動を行っている。この活動を通じ、山林深くまで人の目が行き届くようになり、不法投棄も減少している。

#### (1) 明星登山道（奥和留沢みはらしコース）の整備

久野地区から箱根に至る古道（昔の踏み跡）を開墾、道をつけ、明星登山道（奥和留沢みはらしコース）を整備し、登山道沿いには、ミツバツツジや山ツツジの植栽、案内板、駐車スペースを整備した。このことにより、多くの利用者が地域を訪れている。



写真4 登山道の整備

#### (2) 久野川溪流の整備

久野川の溪畔林は、スギ・ヒノキの人工林で景色が単調であるため、これを間伐し、間隙にモミジや山ツツジ等当該地区の植生に適した広葉樹及び草花を植樹するとともに、人を呼び込めるように溪流沿いにある管理道を散策道として整備している。

整備した散策路では、毎年7月に「久野の溪流と紅葉の里づくり」を開催し、都市住民と地域住民が交流を深めている。

### (3) 「野遊び探検」の実施

毎年4月（春の巻）と8月（夏の巻）に神奈川県民に久野地区の豊かな自然環境を知ってもらい、豊かな自然環境を次代へ引き継ぐため、久野川における生き物観察、川の遡行、アユのつかみ捕り、野外での昼食づくり、竹木工作等を実施している。参加者は、市内からの参加が多いが、ロコミで近隣市や県央地域からの参加も近年増えている。



写真5 野遊び探検

### (4) 環境調査の実施

久野川の水質調査を年4、5回実施するとともに、流域の動植物生態調査や冬水田んぼの実施及び生態調査を実施し、地域の環境の変化を継続的に記録している。